Wakka Agri 代表プロフィール

細谷 啓太（株式会社 Wakka Agri 取締役社長）

農学博士。茨城大学農学部在学中に、「奇跡のリンゴ」木村秋則氏に出会い、無肥料・無農薬栽培に関心をもつ。その後、自然栽培研究の第一人者である杉山修一教授の研究室に進学、博士論文「自然栽培水田における窒素循環と収量成立機構」で農学博士号を取得。2018 年日本初の輸出米専門農業法人（株）Wakka Agri 入社。研究課題だった自然栽培米の生産に取り組んでいる。

自然栽培について、より詳しく知りたい方はこちらをご参照ください。
・「自然栽培水田における窒素循環と収量成立機構」 細谷啓太 博士論文（https://ci.nii.ac.jp/naid/500001863410）
・「すごい畑のすごい土 無農薬・無肥料・自然栽培の生態学」 杉山修一著　書籍
・「ここまでわかった自然栽培」 杉山修一著　書籍

WakkaAgri のこれまでのあゆみ

2017 年 （平成 29 年）	・平成 29 年産から米国市場のニーズ に合わせた無農薬、無肥料の自然栽培によるオーガニック米の生産に取り組む。 ・長野県伊那市長谷非持に農業生産法人「Wakka Agri」を設立し、現地で農地約1haをお借りする。
2018 年 （令和元年）	・細谷が自然栽培の分析や自身の考えを記していたブログを、Wakka グループ代表・出口が発見、意気投合し、入社。 ・伊那市長谷中尾集落に入植し、中尾で3.5haの農地をお借りする。秋には中尾収穫感謝祭を中尾座で実施。
2019 年 （令和 2 年）	・ 第 1 回目の「棚田祭」を実施。中尾集落の住民にお声がけし、30名程度が参加。
2020 年 （令和 3 年）	・圃場面積 5,8ha ・伊那市長谷市野瀬に米の保管倉庫を整備。中山純が物流部長に就任。また、米への獣害が深刻になったことから、鹿部を創立。小松一輝が鹿部部長に就任。令和 3 年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール「有機農業・環境保全型農業部門で関東農政局長賞を受賞。
2021 年 （令和 4 年）	・圃場面積6.8ha。米収穫量15tを突破。細谷が社長に就任。旧中尾営農組合が管理していたライスセンターをお借りし、自社での乾燥調整業務を開始。第 9 回ディスカバー農村漁村の宝優良事例に選定。
2022 年 （令和 4 年）	・中尾集落の築130年の古民家「ひがし」をリノベーションし、Wakka Agriの活動拠点を整備。伊那市ワーキングホリデーの受入を開始。
2023 年 （令和 5 年）	・小松一輝が圃場長に就任し、米作りチームが新体制に。NHK WorldでWakka Agriが紹介され、全世界で放映。
2024 年 （令和 6 年）	1月　玄米日本一を決める玄米王2023で入賞 2月　カミアカリが全国放送に取り上げられ、注文が殺到 3月　築100年の古民家「ますや」をリノベーションし、「食堂野山/山肴野萩」が開店。 4月　自然栽培を科学する、the rice farm Laboratoryが創立。 8月　「棚田まつり2024」を開催。地域内外から約300名が参加し、開催費用はクラウドファンディングで募り目標額を達成（170万） 10月　信州大学農学部と連携・協働する「棚田パートナーシップ」を締結。 10月　伊那市ワーキングホリデーの受入人数が累計18名を突破
2025 年 （令和 7 年）	2 月　伊那市図書館にて「棚田まつり写真展」を開催。 4 月　中尾の古民家「和泉屋」をリノベーションし、「chico café」が開店。 4 月　Wakka Agri 独自のワーキングホリデープログラムを開始。 8 月　棚田まつり2025を開催。

the rice farm
NAGANO HASE